

編集後記

- この3月、2005年から14年間にわたる『西南学院百年史』（以下『百年史』）編纂のプロジェクトが完結した。執筆者の皆さんをはじめ、編纂委員会や監修委員会など多くの方々にご尽力、ご協力をいただいた。心からお礼を申し上げたい。
- このプロジェクトにかかわる業務は、膨大な量があり、章の構成や見出しの内容から、まさに「てにをは」レベルの修正、またDVD版のデザインなどの細かなところまで目を配る必要があった。そしてその作業には、様々な問題や検討事項もあり、一つひとつ解決していかなければならなかった。
- 『百年史』刊行後、次の年史につなげるために『百年史』の経緯や振り返り、反省などをまとめておく必要があるのではないかという考えから、この『西南学院史資料センター紀要』（以下『紀要』）を刊行することになった。また、あらためて『百年史』を振り返る座談会を実施し、編纂の経緯やその過程で明らかになった史実なども含めた。
- この『紀要』は、『百年史』に特化した内容なので、本来、編纂委員会で発刊すべきものであるが、編纂委員会は、『百年史』の刊行とともにすでに解散しているので、資料センター運営委員会に引き継いだ。しかし、『紀要』本来の内容と若干のずれがあるため、「西南学院史資料センター紀要—『西南学院百年史』刊行記念特別号」として発行した。今後、内容を整え、この『紀要』が長く続く冊子に成長することを期待したい。
- 年史編纂後にこのような冊子を出した大学は稀で、そういう意味においても貴重な記録である。年史編纂を課題にする他の大学にとっても参考になるのではないかと自負しており、この『紀要』を次につながる経験値として活用していただきたいと切に願っている。（世）